

# 望岳山荘

にて



中嶋 嶺雄

去る十月七日、長野県立松本深志高等学校の創立百三十周年式典が催された。私も同窓生として参列したが、明治九(一八七六)年

の開学以来、日本の近代教育の展開とともに歩んできた歴史の重みを実感させる式典であった。

百三十周年を記念して、松中・深志の自治の精神を体現してきた自治寮「尚志社」の跡地に同窓会が建設した深志教育会館も、その展示とともに印象深く、式典での穂刈甲子男同窓会長

徒に向かつて、勉学とともに生涯の糧となる友人や教師との出会いを発見するプロセスとしての高校三年間の意味を、「一切原稿を読むことなく諄々と説いたの

典での穂刈甲子男同窓会長の挨拶は、母校愛に溢れるものであった。私と同級(深志七回卒)の村井仁・長野県知事の祝辞もとてもよかった。母校の後輩の生

到来に松本深志高校が率先して備えてほしいことである。わが母校は、信州の各界に多大な影響を与え、ともに、近代日本と戦後日本社会の発展にも大きく貢

は流石であった。こうして母校の節目の式典は盛大かつ成功裡に終わったが、あえて注文をつけるとすれば、二十一世紀のグローバル化と高度知的基盤社会の

## 松本深志高校の百三十周年

年の記念行事が多彩に展開されると聞いている。深志高校音楽部はその歴史も水準も高校生レベルとしては際立っていると思われるが、音楽部現役生とともにOB、OGが多数参加する

献したと言えよう。だとすれば演壇の正面にあった蜻蛉の校章の両脇には、国旗と国旗があってもよかったのではなからうか。今月は深志高校百三十周

学の増井信貴教授である。オーケストラの方は才能教育研究会指導者で松本室内合奏団などを率いるバイオリンの名手・牛山正博君(深志二十三回卒)をコンサートマスターに、過去一年間練習に励み、私も多忙な日程を縫って第一バイオリンのパートに秋田から時々参加した。当日もなんとか出

「志音会」の記念演奏会が来る十月二十二日午後一時から松本市音楽文化ホール(島内)で催される。合唱団とオーケストラで総勢二百人前後が出演するモーツァルトの「戴冠ミサ」が主なプログラムで、総指揮者は桐朋出身で京都市立芸術大(出身)